


☆公害による健康被害を許すな!

☆自然環境・生活環境の破壊を許すな!



モズ
画:橋本正弘

大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会
 大阪市此花区西九条1丁目4-9
 高田ビル 〒554-0012
 TEL 06-6463-8003
 FAX 06-6463-8202
 oskougai@coast.ocn.ne.jp
 発行責任者 芹沢 芳郎
 年間購読料一部2,000円(送料共)
 郵便振替 00910-7-300387

発電装置や交通機関など技術装置は予想通りに挙動するとは限りませんし、部品や部材などの摩耗や劣化などで故障したり事故を起こしたりします。もつとえば技術装置は故障するのが普通、良い技術を目指すには「事故から学べ」といわれるくらいです。ですから性能維持、安全維持のためには、運転音、圧力、振動、温度など、適切な項目によって装置の運転状態を監視し、基準と照らして正常異常を判断し、その情報を装

《環境管理、安全管理》

あれこれ環境雑話

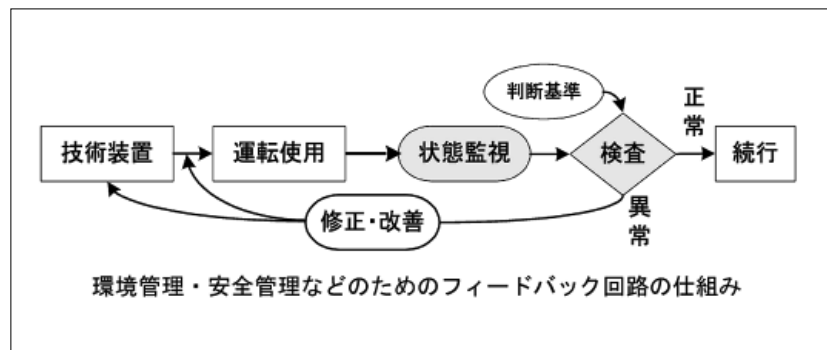
⑨ 環境保全・安全向上を目指す
第三者管理の仕組み

西川 榮一

装置のメーカーやユーザに戻して装置の点検修理や改善、使用の停止や条件の修正を行う仕組みを設けておく、というのが鉄則です。予測通りには行かない事態が起こり得ることを前提に、環境や安全の問題を引き起こさない仕組み、つまり環境管理、安全管理の仕組みを設けておくのが重要ということなのです。

《第三者的安全管理・環境管理のための要件》

技術装置自体の管理も重要ですが、今回の雑話の焦点は、技術そのものよりも、その技術装置を使って社会的活動を行う人間集団の振舞いにあります。人の組織も技術装置と同じような特性があると見られ、図のような仕組みは組織管理にも当てはまると思います。しかし人の組織の場合、技術装置と決定的に異なる特性があります。それは、図の過程に、それに関わる人の意思が働くということ、その意思が原因になって環境や安全の問題、さらには反社会的犯罪問題までも生じ得るのは前回見たとおりです。図の仕組みの大部分を実際に行うのは行政の任務ですが、行政が行うから第三者的であるなどと期待できない



ことも前回見たとおりです。ここに、当事者主導では駄目で、図のフィードバック回路の過程、とりわけ監視、検査、判断基準の設定が、第三者すなわち社会全体の視点に立って行われなければならない理由があるのです。図の過程の第三者性を確保するための要件を、筆者なりにいくつか上げてみましょう。

* 検査および事故調査機関（組織）の独立性
 多くの場合、国では省庁、自治体では首長などの内部に設置されますが良くないですね。少なくとも国家行政組織法にいう外部機関であるべきです。

* 検査・調査機関メンバーの独立性と科学性
 問題となっている技術装置や組織で活動した人が、知識経験豊富だからという理由でメンバーに選ばれることが少なくありません。もつともらしい理由に見えますが、これは当事者をメンバーにすることにつながり、間違っています。航空・鉄道事故調査委員会の委員にJRのOBが選ばれており、JR西会社経営陣はこの委員らと昵懇でした。ここにつけてこんで情報入手、事故調査の歪曲を図ったJR西会社は許されませんが、事故調査委員の方もJR西会社の働きかけに積極的に応えており、しがらみが事故調査委員会の第三者性を壊したのです。メンバー選択は分野の専門性よりも、一切のしがらみなく、課題を科学的に考察できる人が選ばれるべきです。学者・研究者の重要な社会的役割の1つはここにありましょう。